

学校のひとコマ(美術 I 授業の様子)

単元	文字の工夫とポスター(明るい選挙ポスターコンクール 作品制作)
1限～2限	フォームを活用してのアイデア創出(デザインの種)
3限～4限	西東京市選挙管理委員の出張授業(アイデアスケッチ)
5限～6限	一人1台端末でのアイデアスケッチ制作
7限～13限	ケント紙パネルに本制作(着彩含む)
14限	フォームを活用した鑑賞 提出

美術 I では毎年「明るい選挙ポスターコンクール」の制作を行い代表作品の出展を行っています。今年、西東京市選挙管理委員会事務局の方にお越しいただき、選挙に関するお話を聞き、ポスター制作に取り掛かるようにしました。

- 1 まず、一人1台端末にある Teams のアンケート機能 (Forms) を活用し、「現在高校生が考える社会問題」と「若者が選挙に行かないとどうなるのか」をそれぞれが記入し、クラスでみんなの意見をまとめました。



「少子高齢化」や「偏った意見だけの政策」などの意見がみられ、生徒からの意見を共有しました。

また、昨年度の「明るい選挙ポスターコンクール」優秀作品を端末で鑑賞し、どのような作品が優秀作に選ばれやすいのか、どのような工夫や標語があるかを確認し生徒間で共有しました。

- 2 外部機関の講義として、西東京市選挙管理委員会事務局の方の出前授業を受けました。前時にそれぞれが出し合った意見の通り、若者の選挙離れが顕著に数字に表れているデータなどが提示され、啓発ポスターの有用性が感じられる講義でした。選挙委員会の方の問いかけに挙手する場面などがあり参加しやすい授業でした。最後には Forms を活用し生徒からの質問を集め、選挙管理委員会事務局の方が応えてくれる場面もありました。時間上、応えられない質問には後日丁寧な回答がありました。その質問の例は、次のページの通りです。



Q 何故18歳ではなく19歳の投票率が一番低いのですか。

A 19歳の投票率が一番低いということについて、直接お話しを聞いたわけではありませんが、18歳だと選挙権を得てすぐなので初めての選挙という意識が高かったとか、18歳の時に選挙が行われずに19歳になって、選挙が行われたものの、初めての選挙という意識が薄れたということは考えられると思います。

Q 親と相談することはできるのか？よくあまり選挙の人については相談などをしてはいけないと聞きますが、それは親でもダメなのか？すべて一人で決めるべきなのか？

A 選挙で誰を選ぶかは、誰にでも相談できます。気を付けることは、「最後は自分で決める」ことと、誰も、「この人にしなさいなどの強制をすることはできない」ことです。

3 クラスメイトとの意見共有や出前授業でポスターに何を描くのか、標語で何を伝えたいのか「デザインの種」となる部分を考えました。

「デザインの種」から構想し、アイデアスケッチとして表現します。

一人1台端末を使ってネット空間の画像や過去の作品を参考にしながら画像処理ソフトで編集をしてteamsで提出をします。アイビスなどの描画アプリで自由に作画し画像を貼付けて提出した生徒もいます。



西東京市選挙管理委員会事務局の出前授業やFormsを活用した意見の共有、一人1台端末を活用したアイデアスケッチの素材集めや作画など多岐にわたる活動を通して自由にイメージを膨らまし「デザインの種」としました。

その種が今後のポスター本制作につながるように授業を進めていきます。

